

日本医史学雑誌 第四十六卷 第二号 目次

原 著

寿徳院玄由の閨歴について	西村 義明	二九
亀井南冥の医学思想	吉田 洋一	一五
「医範提綱」にみる生理機能——「重訂・解体新書」と比較して	長与 健夫	一七
近代日本の対中医療・文化活動——同仁会研究(三)	丁 蕾	一三
紀州名手市場妹背佐次兵衛家の系譜と壜域——華岡青洲の妻加恵に関連して	松木 明知	二二
研究ノート		
ナイチンゲール「看護覚え書」の草稿と思われるクラウド・モリス社刊		

資 料

池田文書の研究(二十二)	池田文書研究会	二四七
江戸幕府の医療制度に関する史料(九)——坂四家の『官医家譜』など(三)	香取 俊光	二五

記 事

例会抄録		
梅毒の薰葉療法について	中西 淳朗	二六七
佐藤方定の発見した『大同類聚方(延喜本・寮本)』の上表文について	後藤 志朗	二六八
記憶のメカニズムの歴史的考察	鈴木 衛	二六九
ペスト残影シリーズ(十)ケルンに「ペスト残影」を求めて その二	滝上 正	二七〇
女性の病の社会史	野末 悦子	二七一

紹介

山田慶兒『中国医学の起源』	石田	秀実	二七五
漆 浩・池上正治 訳『中国養生術の神秘』	吉元	昭治	二七七
古川 明『切手と絵で見る医学の歴史』	長門谷	洋治	二七九
日本内経医学会『黄帝内経明堂』	遠藤	次郎	二八〇
坂出祥伸『中国思想研究 医薬養生・科学思想篇』	猪飼	祥夫	二八一
坂井建雄『謎の解剖学者ヴェサリウス』	藤田	尚男	二八四
ヴォルフガング・ミヒェル『ライプツィヒから日本へ』	鹿子木	敏範	二八五
文庫めぐり			
横浜市立大学医学情報センター	大島	智夫	二五〇
順天堂大学医学部山崎文庫	深瀬	泰旦	二五二

《本号の表紙絵》

中国歴代名医図

所掲の図は、中国の万暦 27 年 (1599) に刊行された『鏗王氏秘伝脈訣難經太素評林捷徑統宗』という長つたらしい書名の本の見返しに刻された中国歴代名医の図である。

室町後期以降、日本に医学に大きな影響を与えた福建の熊宗立 (1409~81。日本最初の出版医書『医書大全』の著者) は医師であり、出版家でもあった。宗立は正統 10 年 (1455) に『袖珍方大全』を覆刊するにあたり、その巻首に歴代名医図と賛を付刻し、さらに成化 12 年 (1476) には『歴代名医図姓氏』を編んで出版した。

本図はそれを踏襲し、名医の像を 1 図に凝集したものである。上段中央は伏羲、右は神農、左は黄帝。中段は右から王叔和、扁鵲、岐伯、雷公、張仲景、皇甫謐。下段は右から孫思邈 (虎を従える)、葛洪、華佗、韋慈蔵 (麒麟を従える)。1 図に 13 人も名医が集う絵は珍しい。

(小曾戸 洋)